

# 第2回適応自治体フォーラム (コデザインワークショップ)の開催概要

- 日時：2017年8月30日（水）10～17時20分
- 場所：法政大学 市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー
- 参加者：文部科学省，環境省，国土交通省，自治体行政，SI-CAT技術開発機関，SI-CAT社会実装機関他 計109名
- 主な成果
  - 終日開催とし，昨年度より多くの参加者が得られ，技術開発機関，その他自治体の参加が増加
  - 農業，暑熱分野ごとに技術シーズ・行政ニーズを紹介，シーズがどのようにニーズに応えて社会実装に向かうのかについて情報共有
  - 統括本部という権限を持つ部局が新規に計画策定した横浜市，詳細影響予測を保持しつつも計画未策定の三重県の事例紹介により，それぞれの政策過程や課題等の情報共有ができた
  - 環境\*3，農業，防災，暑熱の6つの分科会を，各ファシリテーターが，1) SI-CATカタログや前半の話題提供の中で興味を持てたデータや技術は？ 何もない？ 理由は？ 2) 計画立案に役立てられそうな予測結果や技術が仮に開発された際に，次に問題となりそうな阻害要因は？ 庁内連携はどうすればよい？ 3) 立案された適応計画の情報を市民・ステークホルダーにどう伝える？ ポイントは？ という3つのお題にて運営し，技術開発機関と行政とが直接的にニーズとシーズについて意見交換して，その結果を模造紙にまとめて参加者全員で共有するとともに，リアルタイムでの議論の可視化を試行した

### まとめ

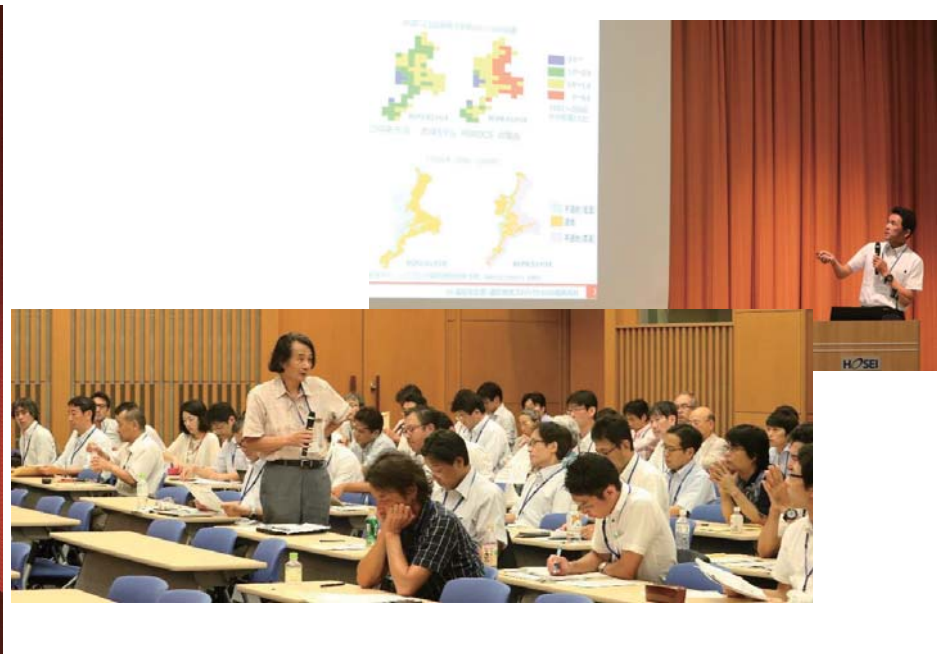
#### 気候変動に伴う大雨・洪水災害の影響評価・対策 北海道(国土交通省・北海道開発局+北海道)の取り組み



気候変動を踏まえた  
治水計画の検討・立案

- d4PDF 20km→5kmに力学的DS不確実性を考慮した降雨量の設定  
by 山田朋人(北海道大学)
- 流出の不確実性(流域の湿潤度)、破堤・氾濫の不確実性なども考慮した治水計画の検討
- 国土交通省・北海道開発局、北海道の管理河川で計画検討の動き  
→DSデータの社会実装
- 過去データの確率処理で立案されてきたこれまでの治水計画を転換させる画期的な取り組み

SI-CAT



SI-CAT カタログの中  
の最前線の中で興味  
を持った技術は? 何  
もない? 理由は?

計画立案に役立てられ  
そうな予測結果や技術  
が仮に開発された際に  
次に問題となるような  
【注として】市内の産業  
地図は? 市内道標はど  
うすればよい?

予測された気候変動影  
響や立案された適応計  
画の情報を市民・ステ  
ークホルダーにどう伝  
える? ポイントは?

共(AM, PM)  
未もった技術・データ  
=役立てられそうな  
技術 → 問題 課題  
にどう対応?

気象予報  
気象予報  
気象予報



手前  
で関  
心  
何

これ  
技術  
的に  
な  
限  
り  
は

手前  
立案された気候変動影  
響や立案された適応計  
画の情報を市民・ステ  
ークホルダーにどう伝  
える? ポイントは?